

予備試験合格者が語る！短答翌日から論文試験までの過ごし方

担当 H29予備合格者（東京大学法科大学院3年・2017年予備試験合格）

MEMO

I 短答後 50 日間の過ごし方

目標【基礎力徹底・論述の感覚を取り戻す】

- ① 学習教材をしぼる
 - ・趣旨規範ハンドブック（定義、趣旨、論点）
 - ・勝てる論証 24 時【2017 年版】
 - ・答案演習（予備スタ論、直前答練、直前模試）

- ② 優先順位をつける
 - ・勉強不足の科目を優先する
ex 実務基礎科目は差がつきやすい
 - ・苦手科目を克服する
ex EF 科目を C 科目へ上げる

- ③ 最終チェックを行う
 - ・直前や当日に見直すテキストをまとめておく
 - ・公開模試により、時間の配分、書ける答案の量を把握しておく

II 各科目の勉強

1 憲法

- ・基本事項（判例や趣旨）を確認
- ・原告、被告、私見の対立点を明確にする
- ・審査基準の定立への理由を具体的に述べる

2 行政法

- ・問題演習を積む
- ・記載法令の仕組み解釈を行う

3 民法

- ・基本事項（判例）を確認
- ・スタ論の模範解答を読んで解答のイメージをつかむ
- ・当事者の生の主張を意識する

4 商法

- ・条文素読、目次を意識する
- ・問題演習を積む

5 民訴

- ・定義・趣旨・規範の暗記に注力

MEMO

6 刑法

- ・定義の暗記、論証の暗唱
- ・問題演習を積む、いかに多くの論点に気づけるか

7 刑訴

- ・定義や趣旨の暗記に注力
- ・具体的検討、あてはめを充実させる

8 実務基礎科目

- ・要件事実の暗記
- ・過去問を繰り返し解く

Ⅲ 最後に

- ・事案をよく読む。当事者の素直な主張を把握する。
- ・論点に飛びつかない。問題文の誘導に乗る。
- ・普段やらないことをしない。平均答案、無難な答案を目指す。
- ・緊張感と適度な自信をもって
- ・お世話になった方への感謝の気持ち